

フィリピンの NGO と手をつなぐ

◆ CGN との出会い ◇

フィリピンの NGO であるコーディネエラ・グリーン・ネットワーク(以下「CGN」といいます)は、フィリピンのコーディネエラ地方(ルソン島北部の山岳地域)で環境保全と先住民族の暮らしの向上を目的として活動を行う団体です。この CGN との出会いは、かつてスリランカで共にボランティア活動をした N さんが紹介してくれたことで実現をしました。N さんは私がスリランカでのボランティアを行っていた20年ほど前、スリランカで長期間滞在し子供たちに日本語を教えていました。その後、フィリピンの方と結婚されてフィリピンで生活していました。私がスリランカで奨学金支援を始め、ボランティアグループを立ち上げたいと模索していたとき、CGN を教えていただきました。

◆ フィリピンでの思い出 ◇

フィリピンとは、実は私自身苦い思い出はありました。フィリピンには過去に1度、今から15年前に訪問したことがあり、その際マニラでパスポートを盗まれてしまった経験があるからです。当時は、パスポートを盗まれたことをホテルに伝えたところ、支配人から警察まで付き添ってくれるということと言われ、ホテルの車で警察署に行き盗難届を出し、その翌日、大使館で仮パスポートの申請(帰国のみ有効のパスポート)をして、これを使って帰国してきました(写真はその時いったバギオの風景)。



◆ CGN と手をつなぐ ◇



フィリピンでのこの苦い一件以来、フィリピンと関わることなく過ごしてきましたが、折角のご縁、さっそく何か協力できることはないかと申し出たところ、コロナ禍で閉鎖していた学校がようやく再開することとなったが、子供たちの学びへのモチベーションが下がっていることから、地域のお年寄りにその地域の伝承を子供たちに伝えてもらい、それを絵に描くという活動を考えているが、これに協力するつもりはないかというお話をいただきました。このことを切っ掛けにし、この活動に手をつなごうアジアで行ったイベントの収益の一部を充てることとし、画材の提供の申し出を行いました。

◆ こうして生まれたアート・ワークショップ ◇

こうして画材の提供という形で CGN の活動に参加できたわけですが、送られてきた報告書を見たときに私は強い衝撃を受けました。地域のお年寄りから聞いた伝承をイメージしたものを多くの子供たちがみんなで大きな紙に描いている、小さい子も大きい子も真剣なそれでいて楽しげな眼差しで。素敵な取り組みと思って、CGN に是非この取り組みをスリラ

ンカなどの国の子供たちにも体験させたい、僕らでやってもよいでしょうか？と尋ね、快く了解をしてもらいました。現在、スリランカでアート・ワークショップを実施するため準備中ですが、スリランカの子供たちにもフィリピンの子供たち同様、輝いた眼差し、楽しい経験をしてもらいたいし、多くの人と手を取り合うとこんなにも素敵なことが実現できるのだという経験をしてもらいたく思っています。

